2021.11.16

大草

**生と死に関するメモ**

最近、生と死について考えた。以下はそのメモである。自由に自分の死生観を語りませんか！

**1.平家物語の冒頭と最終の巻から（注：そのままの引用ではない）**

＜表には　祇園精舎の鐘の声　諸行無常の響きあり＞

＜裏には　寂光院の鐘の声　盛者必衰の理をあらわす＞

**2.生と死について（下線部はブッダが悟った４つのこと）**

①生と死は紙一重(表裏の関係）

よく生きる事は、よく死ぬことに通じる。

②諸行無常

すべての存在は変化する。

③一切行苦

世の中は全て苦しみであり、思い通りにならない事を示す。

④諸法無我

独立して存在するものは何もない。他の者との関係（縁）により存在している。

⑤量子論の思想

　一瞬のなかに永遠があり、永遠のなかに一瞬がある。因果関係が成立しない。

⑥限りある人生(命)

　残りの日数を数えるのではなく、一日一日を積み上げていく考え方をとる。

　悟りとは平然と死に臨むことと思っていたが、平然と生きることも含んでいる。

⑦涅槃寂静

　煩悩の炎（苦や思い通りに行かないこと）の吹き消された悟りの世界は静かな安らぎの境地である。

**3.一人称の死生観**

①生と死は、表裏の関係にあり、よく生きることはよく死ぬことに通じる。

②残された人生の日数を数えていくのではなく、一日一日を大切にし積み上げていく考え方をとる（今日も一日過ごすことができたことに感謝する。後何日生きられるとは考えない）。

③毎晩死して、毎朝生き返ることの繰り返しが人生ではなかろうか。

以上